

2026.02.16 (Mon)
14:30-17:30

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/sichouson/kentoukaipr1.html>



TOHOKU
UNIVERSITY

第1回

宮城県選挙期間中の情報流通の 諸課題への対処に関する検討会

鈴木潤

東北大学 言語AI研究センター センター長 / 教授

経済安全保障重要技術育成プログラム



The screenshot shows the official website for the K Program. At the top left is the Cabinet Office logo. Navigation menus include '内閣府の政策', '組織・制度', '広報・報道', and '活動・白'. A search bar and 'English' language selector are at the top right. The breadcrumb trail reads: '内閣府ホーム > 内閣府の政策 > 科学技術・イノベーション > 安全・安心 > 経済安全保障重要技術育成プログラム'. The main heading is '経済安全保障重要技術育成プログラム', followed by its common name '通称:K Program' and English name '英名:Key and Advanced Technology R&D through Cross Community Collaboration Program'. Below this is the 'K Program' logo, which consists of a stylized 'K' in blue and green, followed by the text 'K Program' and '経済安全保障重要技術育成プログラム'. A paragraph of text explains the program's goals: to ensure Japan's status in the international community by supporting cutting-edge technologies, promoting cross-community collaboration, and addressing national needs while managing technology export risks.

経済安全保障重要技術育成プログラム通称：K Program

英名：Key and Advanced Technology R&D through Cross Community Collaboration Program

本プログラムは、中長期的に我が国が国際社会において確固たる地位を確保し続ける上で**不可欠な要素となる先端的な重要技術**について、科学技術の多義性を踏まえ、民生利用のみならず公的利用につながる研究開発及びその成果の活用を推進するものです。具体的には、**経済安全保障上の我が国のニーズ**を踏まえつつ、個別の技術の特性や技術成熟度等に応じて適切な技術流出対策をとりながら、**研究開発から技術実証までを迅速かつ柔軟に推進**します。

https://www8.cao.go.jp/cstp/anzen_anshin/kprogram.html

経済安全保障重要技術育成プログラム

研究開発構想

・ 研究開発ビジョン(第二次)に基づく研究開発構想

作成日	領域	研究開発構想
2023.12.25	海洋	海中作業の飛躍的な無人化・効率化を可能とする海中無線通信技術(PDF形式:451KB)
2023.12.25	海洋	デジタル技術を用いた高性能次世代船舶開発技術及び船舶の安定運航等に資する高解像度・高精度な環境変動予測技術(PDF形式:593KB)
2023.10.20 (改定: 2025.4.3)	宇宙・航空	高高度無人機による海洋状況把握技術の開発・実証(PDF形式:633KB)
2023.12.25	宇宙・航空	高高度無人機を活用した災害観測・予測技術の開発・実証(PDF形式:538KB)
2023.10.20	宇宙・航空	超高分解能常時観測を実現する光学アンテナ技術(PDF形式:862KB)
2023.10.20	宇宙・航空	衛星の寿命延長に資する燃料補給技術(PDF形式:955KB)
2023.10.20	宇宙・航空	長距離物資輸送用無人航空機技術の開発・実証(PDF形式:1070KB)
2023.10.20	領域横断・サイバー空間	先進的サイバー防御機能・分析能力強化(PDF形式:1583KB)

領域横断・サイバー空間
偽情報分析に係る技術の開発

2023.12.25	領域横断・サイバー空間	セキュアなデータ流通を支える暗号関連技術(高機能暗号)(PDF形式:447KB)
2023.10.20	領域横断・サイバー空間	偽情報分析に係る技術の開発(PDF形式:1228KB)
2023.12.25	領域横断・サイバー空間	ノウハウの効果的な伝承につながる人作業伝達等の研究デジタル基盤技術(PDF形式:541KB)
2023.10.20	領域横断・サイバー空間	高度な金属積層造形システム技術の開発・実証(PDF形式:1298KB)
2023.10.20	領域横断・サイバー空間	高効率・高品質レーザー加工技術の開発(PDF形式:1169KB)
2023.10.20	領域横断・サイバー空間	重希土フリー磁石の高耐熱・高磁化技術(PDF形式:1261KB)
2023.10.20	領域横断・サイバー空間	次世代半導体微細加工プロセス技術(PDF形式:1065KB)

2023.10.20	領域横断・サイバー空間	高出力・高効率なパワーデバイス/高周波デバイス向け材料技術開発(PDF形式:1657KB)
2023.10.20	領域横断・サイバー空間	孤立・極限環境に適用可能な次世代蓄電池技術(PDF形式:974KB)
2023.12.25	領域横断・サイバー空間	耐熱超合金の高性能化・省レアメタル化に向けた技術開発及び革新的な製造技術開発(PDF形式:497KB)
2023.12.25	領域横断・サイバー空間	輸送機等の革新的な構造を実現する複合材料等の接着技術(PDF形式:413KB)
2024.3.29	領域横断・サイバー空間	多様な機器・システムへの応用を可能とする超伝導基盤技術(PDF形式:494KB)
2023.10.20 (改定: 2024.12.13)	バイオ	有事に備えた止血剤製造技術の開発・実証(PDF形式:781KB)
2023.12.25	バイオ	多様な物質の探知・識別を可能とする迅速・高精度なマルチガスセンシングシステム技術(PDF形式:616KB)
2023.12.25	バイオ	脳波等を活用した高精度ブレインテックに関する先端技術(PDF形式:458KB)
2025.4.25	バイオ	合成生物学、データ科学等の先端技術を利用した肥料成分の有効活用・省肥料化・肥料生産等に関する技術(PDF形式:470KB)

https://www8.cao.go.jp/cstp/anzen_anshin/kprogram.html

偽情報分析に係る技術の開発


 国立研究開発法人
 新エネルギー・産業技術総合開発機構

[English](#)
[検索](#)

[ニュース](#)
[イベント](#)
[メディア](#)
[調達](#)
[採用情報](#)
[お問い合わせ](#)

[公募](#)
[事業紹介](#)
[成果・評価](#)
[契約案内](#)
[NEDOについて](#)

ホーム > ニュース > ニュースリリース一覧 > 「経済安全保障重要技術育成プログラム」で偽情報の分析に係る技術の開発に着手

「経済安全保障重要技術育成プログラム」で偽情報の分析に係る技術の開発に着手

— 複数の根拠から真偽判定を支援する偽情報対策システムの開発を目指す —

2024年7月19日

NEDO（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）

NEDOは経済安全保障を強化・推進する観点から支援対象とすべき先端的重要技術育成プログラム（通称“K Program”）」（以下、本プログラム）の一環で「偽情報分析に係る技術の開発」（以下、本事業）に着手します。

本事業は、情報の真偽判定や社会的影響度の評価に資する要素技術などの研究、開発に係る技術を獲得するための研究を行い、今後も一層の拡大が懸念される偽情報に対して、対応策を開発します。

また、このような技術そのものに係る世界的ニーズが高まる中、事業の成果として国際競争力強化につなげ、日本の不可欠性の確保、優位性の向上を目指します。

https://www.nedo.go.jp/news/press/AA5_101763.html

		2024年	2025年	2026年	2027年	
偽情報分析に係る技術の開発事業	①要件定義	エースケース、技術動向の調査、要件定義の検討				
	②偽情報検知技術	文章・画像・音声・動画の作為性発見技術	各種偽情報判定手法の確立	中間評価 (ステージゲート)	手法改善・開発・検証	事後評価
	②偽情報検知技術	エンドースメント情報分析技術	エンドースメント設計/評価手法の確立	中間評価 (ステージゲート)	開発・検証	事後評価
	③偽情報評価技術	影響分析技術	定量化指標・可視化手法の確立	中間評価 (ステージゲート)	開発・検証	事後評価
④偽情報分析/評価システム化技術	システム化技術	システムの仕様を確定、情報収集・対象情報の取り込み手法の確立	中間評価 (ステージゲート)	②/③技術との統合及び偽情報検知/評価システム構築・検証	事後評価	

現行システム

- 自動的に偽誤情報 (偽情報・誤情報) を (一定精度で) 判別



ポイント1

- 単純な真偽判定だけでなく「根拠 (理由) 説明」や「影響評価」が付随

判定結果と文章で理由を説明



ポイント2

- 最終的に自動判定結果を「人間」がどうするか考える

<https://pr.fujitsu.com/jp/news/2024/10/16.html>

到達点

- 偽誤情報を自動判別 => (ある程度の精度で)可能
 - LLMの登場により更なる自動化が可能
 - なぜ偽誤情報だと判断されるのか/されないのかの根拠情報も提示可能
 - 根拠情報は公的機関の情報など信頼性が高いと考えられる情報源を利用
 - 人間の情報分析官の判断基準に利用可能
- 偽誤情報として社会に与える影響なども同時に推定可能
 - 過去事例を基に影響規模を推定可能
 - 対策の緊急度の判断に利用可能

(本事例のシステムは) 偽誤情報検出後の対策そのものは自動で実施しない
=> 対策そのものは人間が考え実施する前提

課題1

- 対策実装の困難性：偽誤情報（偽情報・誤情報）自体を判定できてもそれだけではあまり意味がない

課題1

- 対策実装の困難性：偽誤情報（偽情報・誤情報）自体を判定できてもそれだけではあまり意味がない

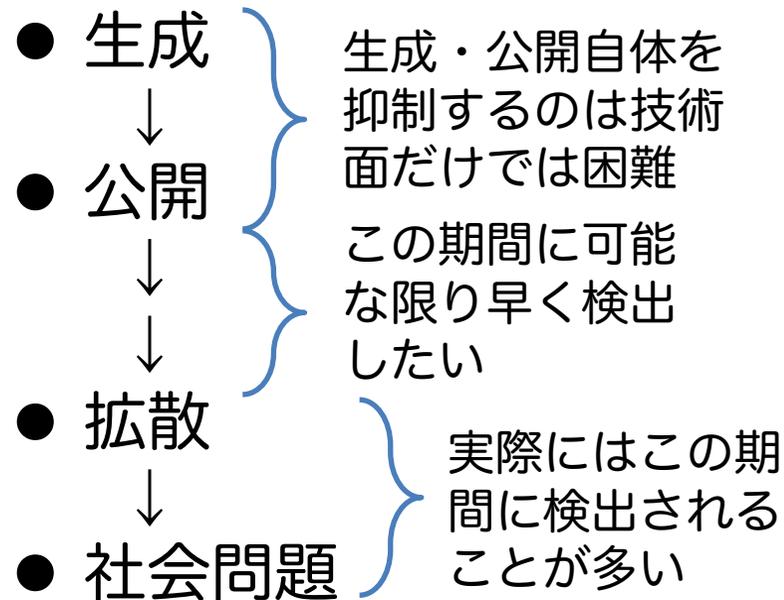
- 対策の難しさ

- 検出できる時期に応じて対策できること/すべきことも変わる
- 現状は拡散前に偽誤情報を検出できていないことが多い

対策が重要：おそらく全自動は困難

- 対策支援システムの構築が必要
- 情報分析/対策構築 担当の人材育成

偽誤情報



課題2

- 情報類型の多様性：偽誤情報だけではない

課題2

- 情報類型の多様性：偽誤情報だけではない
- 様々な観点で分類できる
 - 例：内容自体は事実だが特定の個人や集団に害を与える目的で文脈を歪めたり公開されたりする情報
 - 文脈操作，誤解を誘う「真実」，世論誘導，価値観操作
 - Fact をチェックするだけでは不足の可能性
- 昨今の多様な情報流通事情を反映する必要性

(偽誤情報に限定せず) 情報の流通プロセスそのものを対象とした方が良い (かもしれない)

課題3

- 真偽概念の流動性

課題3

● 真偽概念の流動性

- 公的機関 (公官庁など) の情報は常に正しい？

- 最近様々なニュースなどで公的機関の情報に誤りが指摘される
=> 情報の正誤を判断する根拠に使っていいのか
- 海外事例では公的機関自体が情報操作的な意図をもって情報を発信するケースも存在

- 情報の正確性は時間と共に変化

- 時刻 t までは正しい
時刻 $t+1$ では間違い
(よくあるケース)
- 時刻 t までは間違い
時刻 $t+1$ では正しい
(このケースも普通に起こる)

例：災害時、堤防が決壊というデマ
その数時間後に本当に堤防が決壊

偽誤情報システムにより一旦デマと認識
=> その後の事実変化が混乱を招く可能性

まとめ

● 事例紹介

- 内閣府主導で 2022-23 頃から偽誤情報の技術開発が継続

● 到達点

- 技術面では偽誤情報は一定の精度で自動判別可能
- ただし 技術面以外のところに多くの課題
=>技術面では偽誤情報の拡散を抑制することは困難

● 課題例

- ①対策実装の困難性
- ②情報類型の多様性
- ③真偽概念の流動性
(公的機関依存, 時間依存)

- 技術面だけでは圧倒的に不足：仕組みや法整備が必須
- (偽誤情報とどうかは関係なく) 情報の流通の仕組みをどうするのかを考える必要性